

Injury Alert (傷害速報)類似事例

抱っこ紐からの転落による頭部外傷 (No.41 抱っこ紐からの転落による頭部外傷の類似事例4)

事 例	年齢：0歳5か月 性別：男児 体重：7kg 身長：65cm	
傷害の種類	転落	
原因対象物	抱っこ紐 (対象 3~36 か月) (図 1)	
臨床診断名	後頭骨骨折	
医 療 費	352,250 円	
発 生 状 況	発生年月日・時刻	2017年11月2日 午前9時30分
	発生時の詳しい様子と経緯	<p>母が抱っこ紐を前方につけて児を対面するような形で抱っこしていた。ベランダで洗濯物を干そうとして、台に置いた洗濯籠から洗濯物を取り、上方に母が腕を伸ばしたところ、抱っこ紐の脇から児の臀部がすり抜けて、母の足元に落下した。落下した高さは1mほどで、床はコンクリートであった。児は臀部を打撲したあと頭部を打撲し、すぐに啼泣した。心配した母親がすぐに救急要請し、医療機関に搬送された。</p> <p>抱っこ紐は、児が座る部分にヒップシートと呼ばれる発泡スチロールが入っていたが、抱っこ紐の脇に臀部を突き出し、腹部と足で「く」の字のようになり、突き出した臀部が脇からすり抜けてしまった。以前からお尻を自由に動かし、不安定になることがあった。</p>
治療経過と予後	<p>来院時意識清明で痙攣や麻痺はみられなかったが、右後頭部に長径3cmの著明な腫脹を認めた。頭部CT検査を施行したところ、右後頭部皮下に帽状腱膜下血腫、その直下の後頭部に骨折を認め、入院し経過観察となった。入院後もバイタルサインは安定しており、異常な神経症状の出現なく経過した。</p> <p>家族への指導 (日常の育児に関すること)、新しい抱っこ紐購入と使用方法の確認など行ってから、入院6日目に退院とした。退院後半年以上外来で経過を確認しているが、問題はみられていない。</p>	



図1. 実際の製品を装着した様子

Injury Alert (傷害速報)類似事例

抱っこ紐からの転落による頭部外傷 (No.41 抱っこ紐からの転落による頭部外傷の類似事例5)

事 例	年齢：3 か月 性別：男児 体重：3.67kg 身長：55.0cm	
傷害の種類	転落	
原因対象物	抱っこ紐 (ベビーキャリア+インファントインサート)	
臨床診断名	右頭頂骨骨折、急性硬膜外血腫、帽状腱膜下血腫	
医 療 費	295,790 円	
発 生 状 況	発生場所	自宅のトイレ
	周囲の人 ・状況	児をインファントインサートに入れて、父がそのインサートをおさめた状態でベビーキャリアを肩にかけていた。
	発生年月 日・時刻	2018年2月15日 午後8時40分
	発生時の 詳しい様子 と経緯	身長 184 cmの父親が、児をインファントインサートに入れ、そのインサートをおさめた状態でベビーキャリアを肩から掛けていた。父親がトイレに行った際に、ベビーキャリアの腰ベルトを外し、便座に腰かけた。その後、腰ベルトを外したまま立ち上がったところ、インファントインサートごとおよそ1mの高さから転落した。本児は右側頭部側から直接床に転落した。直後に児は大きく啼泣し、右頭部が腫れてきたため、自家用車で来院した。
治療経過と予後	<p>来院時、バイタルは体温：37.0℃、脈拍数：178 回/分、酸素飽和度：98% (大気下)であった。右側頭部が膨隆しており、触ると痛がる様子が見られていた。頭部 CT 検査を行い、打撲部位に頭蓋骨骨折・急性硬膜外血腫が見られたため、経過観察目的に入院した。</p> <p>受傷3時間後に再度 CT 検査を行ったが、血腫の増大は見られず、受傷10時間後の CT 検査では血腫は消退傾向であった。その後も全身状態は良好であり、2月19日に退院した。退院後、症状・後遺症はなく、受傷3か月後の CT 検査では、血腫は縮小・消退傾向、骨折は癒合傾向にあった。</p> <p>なお本児は双胎第2子。29週1日で出生 (出征時体重 1234g)。出生後は特記すべき基礎疾患を指摘されていない。</p>	

<受傷状況>

(父が立ち上がった際に父の身体とインファントインサートとの間に隙間ができ、その隙間から転落した)



インファント インサート



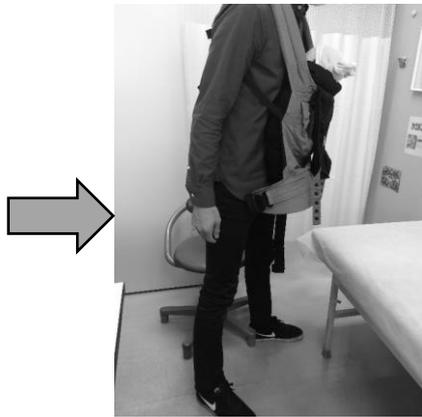
ベビーキャリア



腰ベルトを装着した状態



腰ベルトを外した状態



Injury Alert (傷害速報)類似事例

抱っこ紐からの転落による頭部外傷(No.41 抱っこ紐からの転落による頭部外傷の類似事例 6)

事 例	年齢：0歳2か月 性別：女児 体重：4.7kg 身長：52.5cm	
傷害の種類	転落	
原因対象物	抱っこ紐	
臨床診断名	外傷性頭頂骨骨折、外傷性急性硬膜下血腫	
医 療 費	824,920 円	
発 生 状 況	発生場所	自宅の浴室
	周囲の人・ 状況	父・母・本児（第1子）の3人家族 父が本児を抱っこしながら浴室で洗濯物を干しており、母は台所にいた
	発 生 年 月 ・ 時 刻	2020年3月X日（日） 午後3時00分
	発 生 時 の 詳 しい 様 子 と 経 緯	身長164cmの父が、抱っこ紐を使用して本児を対面で抱っこしたまま、自宅の浴室で洗濯物を干していた。抱っこ紐のバックルがすべて締まっていることは、父自ら確認していた。父が両腕を拳上させた際、抱っこ紐の左側から患児がすり抜け、浴室床のプラスチック製タイルに墜落した。父は墜落の瞬間を目撃していないが、ゴンという音が1回した直後に本児が啼泣した。すぐに抱き上げ、本児の右側頭部の腫脹に気がつき、受傷1時間後に医療機関を受診した。 なお、本児の出生歴および入院時までの成長・発達に明らかな異常はない。抱っこ紐は本人用に購入したもので、普段は定頸前の乳児を抱っこする際に装着する専用インサートを使用していたが、当時は父が「自宅内だから安全だと思った」ため使用していなかった。

治療経過と予後	<p>医療機関受診時、本児は意識清明でけいれんや麻痺は認められなかった。右側頭部に 6×7.5cm 大、左側頭部に 4×5cm 大の柔らかい腫脹を触れ、頭部以外に外傷性変化はなかった。頭部 CT 検査を施行し、両側頭頂骨に線状骨折と帽状腱膜下血腫、両側頭頂部円蓋部に少量の硬膜下血腫を認めた。脳神経外科医と方針を共有し、経過観察目的に集中治療室へ入室した。3 時間後に再度施行した頭部 CT 検査で、血腫の増大は認められなかった。以降、けいれんや神経学的異常は出現せず、入院 3 日目に一般床へ転棟し、患児の活気・哺乳状況ともに問題なく経過した。</p> <p>身体的虐待を鑑別するためのスクリーニング検査として、入院 2 日目（受傷後約 24 時間時点）に眼底検査、入院 3 日目に全身骨 X 線検査を行った。眼底所見に異常はなく、頭部以外に明らかな骨折は認められなかった。また、入院 4 日目に施行した頭部単純 MRI 検査上、脳実質損傷は認められなかった。入院 6 日目に院内関係者でカンファレンスを行い、事故の可能性が高いと判断された。家庭内事故の再発防止目的に子ども家庭支援センターに介入を依頼し、ご両親合意のもと地域での育児支援体制を整え、入院 9 日目に退院となった。骨折および血腫については脳神経外科外来、発達面については総合診療科外来で経過観察を続ける方針とした。</p>
---------	---